

米国：ISM景況指数（2016年8月）

—非製造業の景況感は6年ぶりの低水準に—

MRI Daily Economic Points

September 7, 2016

図表1 総合指数

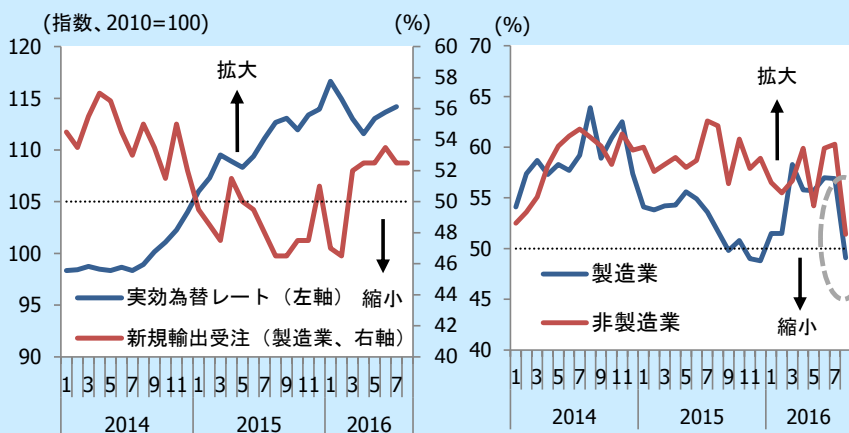


評価ポイント

今回の結果

- 8月のISM製造業景況指数(総合、9/1日公表)は、49.4と前月(52.6)から大幅に低下。2016年3月以降、持ち直していたものの、6ヶ月ぶりに拡大・縮小の分岐点である50を下回った。
- 項目別にみると、すべての項目が低下した。新規受注(49.1)、生産(49.6)が前月(それぞれ56.9、55.4)から大幅に低下し、8ヶ月ぶりに50を割り込んだ。雇用(48.3)、入荷遅延(50.9)、在庫水準(49.0)も低下した。業種別にみても、50を上回り活動が拡大した業種が18業種のうち6業種にとどまり(前月11業種)、幅広い業種で景況感が悪化した。
- 一方、総合指数には含まれない新規輸出受注(52.5)は6ヶ月連続で50を超えた。ドル高進行の一服を背景に、持ち直している(図表2)。
- 8月のISM非製造業景況指数(総合、9/6日公表)は、51.4と前月(55.5)から大幅に低下。50を上回るものの、2010年2月以来の低水準となった。
- 項目別にみると、新規受注(51.4)、ビジネス活動(51.8)が前月(それぞれ60.3、59.3)から大幅に低下し、全体を押し下げた。雇用(50.7)も小幅低下。業種別では、50を上回った業種は11業種と前月(15業種)から減少した。

図表2 新規輸出受注・実効為替レート 図表3 新規受注



資料：米供給管理協会、国際決済銀行(BIS)

基調判断と今後の流れ

- 製造業の景況感は、ドル高進行の一服により持ち直していたが、8月は大幅に低下。これまで底堅く推移していた非製造業の景況感も、50付近まで低下した。16年11月の大統領選を控え、企業活動は慎重化している。
- 先行きも、堅調な内需に支えられ、企業活動は拡大基調は維持すると予想するが、先行指標である新規受注が悪化しているため(図表3)、拡大ペースは鈍化する可能性がある。また、大統領選前後で不確実性が高まる場合には、企業活動の下押し圧力となる点には注意が必要だ。